

インパクト志向金融宣言

第11回ワーキングレベル会合

2024年7月25日(木)09:30～11:30
オンライン・リアル同時開催

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

本日のアジェンダ

1. 定足数確認、議長選出(決議)
2. 新規署盟機関ご挨拶
3. 決議事項
 - (第1号決議事項)第13条2項に基づく、会費導入にかかる運営規程の改定
 - (第2号決議事項)第13条2項に基づく、その他の運営規程の改定
 - (第3号決議事項)「会費起算日」の決定
 - (第4号決議事項)「特別賛同機関(創立者)」の名称を付す決議
 - (第5号決議事項)「特別協賛」の名義を付す決議
4. 報告事項
 - (第1号報告事項)分科会/企画チーム活動報告
 - (第2号報告事項)その他報告事項
5. 協議: 中期計画を踏まえての議論
6. 今後の予定、事務局連絡

(名刺交換会) 11:30～12:00

1. 定足数確認・議長選出

- 定足数の確認
- 議長の選出(決議)
 - 運営規程第14条に基づき、**運営委員会委員長**の議事運営により、総会の議長を選出する。

2. 新規署名機関の紹介

- 署名機関数は79社へ(署名金融機関73社、署名協力機関6社)

署名日	署名金融機関	署名協力機関
7月1日付	株式会社 山陰合同銀行	-

(第1号決議事項) 第13条2項に基づく、会費導入にかかる運営規程の改定

(第2号決議事項) 第13条2項に基づく、その他の運営規程の改定

(第3号決議事項) 「会費起算日」の決定

- 別添資料① 議案書
- 別添資料② 自走化PTの最終報告
- 別添資料③ 運営規程改訂のポイント
- 別添資料④ 運営規程案

(第4号決議事項)「特別賛同機関(創立者)」の名称を付す決議
(第5号決議事項)「特別協賛」の名義を付す決議

- 別添資料① 議案書
- 別添資料③ 運営規程改訂のポイント
- 別添資料④ 運営規程案

分科会	座長
地域金融	金井さん、山崎さん
ソーシャル指標	松原さん、石井さん、朝野さん
VC	堤さん、秦さん
AO/AM	松本さん、安間さん
融資・債券	末吉さん、清水さん、橋爪さん
企画チーム	座長
IMM	今田さん、菅野さん
海外連携	藤井さん、中村(将)さん
定義・算入基準	事務局

セミナー・イベントの予定

主催/共催イベント

8月22日	(仮)システムチェンジ SIIF	IDFI
8月28日	ELT第3弾:第一生命、みずほFG、りそなH	ELT企画
10月3日	ELT第4弾:横浜銀行、肥後銀行、京都信金	ELT企画
ELT第5弾	環境エネルギー投資、LP出資者	ELT企画
2025年1月29日	WL会合/プロGRESSレポートプレス発表 /コンファレンス/(出版記念)	IDFI主催/TRP協賛

- 別添資料

- 別添資料

出版企画について

- 題名：(仮)『インパクト志向金融宣言！～金融による新たな価値創造の時代の幕開け』
- 監修：水口剛
- 著作権者：インパクト志向金融宣言(印税受領先)
- 各章を担当する会社・個人については、印税が入った時点でそこから「謝礼」を支払うことを想定
- 企画趣旨：岸田政権により打ち出された「新しい資本主義」の施策の一つとしても注目されている「インパクト投資」。黎明期にあるインパクト投資の歴史・概要・現状を、日本における実例を各アセットクラス別にケーススタディすることを通じて、つまびらかにし、今後のあるべき姿を展望する。これまでの類書は、海外文献の翻訳や海外事例の紹介に留まっていたが、本書は、実務家が集まるイニシアティブであるインパクト志向金融宣言によるもので、日本における現時点における好事例を包括的に詳細に紹介し、日本の金融セクターの特徴を踏まえたインパクト投資の実態とその意義、その課題や、今後の健全な発展への示唆を提示するものである。インパクト投資の推進が国の施策となった今、インパクト投資を巡る最新の動向はこの1冊ですべてわかることを目的とする。

プロGRESS・レポート作成スケジュール

- 2024年7月 昨年のプロGRESS・レポートについてのアンケート実施
- 2024年8月 意見交換会実施(融資・債券分科会)
- 2024年9月 ガイダンス発表
- 2024年10月 インパクトファイナンス残高他提出
- ~編集・デザイン等作成期間~
- 2025年1月末公開

中長期視点での本宣言の活動の振り返り

背景・目的

- 宣言においては、ビジョン・ミッション、TOC、宣言を作成し、それに基づく中期計画のもと活動を進めてきた
- 中期計画の目標達成年度2025年まで残すところ1年強
- ここまでの活動を振り返り、大きく見落としている視点がないか、進め方として見直す必要のある部分がないかなどを議論したい

議論の進め方

- ①中期計画で定めた活動内容について、2025年の達成見込みを振り返り、未達の可能性が高い項目の対応検討など、今後の進め方や取り組み方針を議論
- ②本宣言の「ビジョン」と、近年のインパクト投資の動向を踏まえた上で、宣言として現在の中期計画にはないが、取り組むことが望ましいと考えられる活動はないかを議論(ビジョンからのバックカスティング視点)

①中期計画の振り返り

- Green: 予定通り達成見込み
 ● Yellow: 一部未達の可能性あり
 ● Red : 達成が難しい可能性あり・要議論

	活動内容	優先度	達成見込み	補足説明
1	インパクトファイナンスの実践を支援する包摂性の高い活動を継続する	○	●	
2	署名機関間の情報共有やピアラーニングによる実践の悩み解決、実践の蓄積、象徴的事例の創出	○	●	
	海外の最新動向やフレームワークの紹介	○	●	
	先進事例の情報収集・共有(クロスオーバー投資や非上場・上場の連結の好事例、IMMや開示の好事例等)	○	●	
	インパクト関連データの整備・作成・集約・公開※)	△	●	
2	参加金融機関のベンチマーク調査(IMM実践等)・ピアレビュー	△	●	但し公開について要審議
	社会性指標の開発、基準や指針の整理、コンセプト開発	○	●	
	金融機関がインパクトファイナンスを推進していくために必要な多様性ある人材の育成、確保	○	●	
3	人材の育成を推進する	○	●	
4	活動内容や成果、インパクト創出事例を定期的・戦略的に発信する	○	●	
	インパクト大賞、認証制度の創設	△	●	
5	対金融機関内部(金融機関経営者を含む)とのエンゲージメント	○	●	
	対政策立案者(政府・自主規制機関)、資金の出し手(個人、年金基金)、投資先、証券会社等とのエンゲージメント	○	●	
6	自走化計画の策定・移行	○	●	
	ガバナンスや運営規定の策定、情報蓄積・共有の仕組み構築、ブランド力の強化、包摂性の維持、あたらしい金融の在り方検討	○	●	

2024年の活動計画(全体/企画チーム主導)

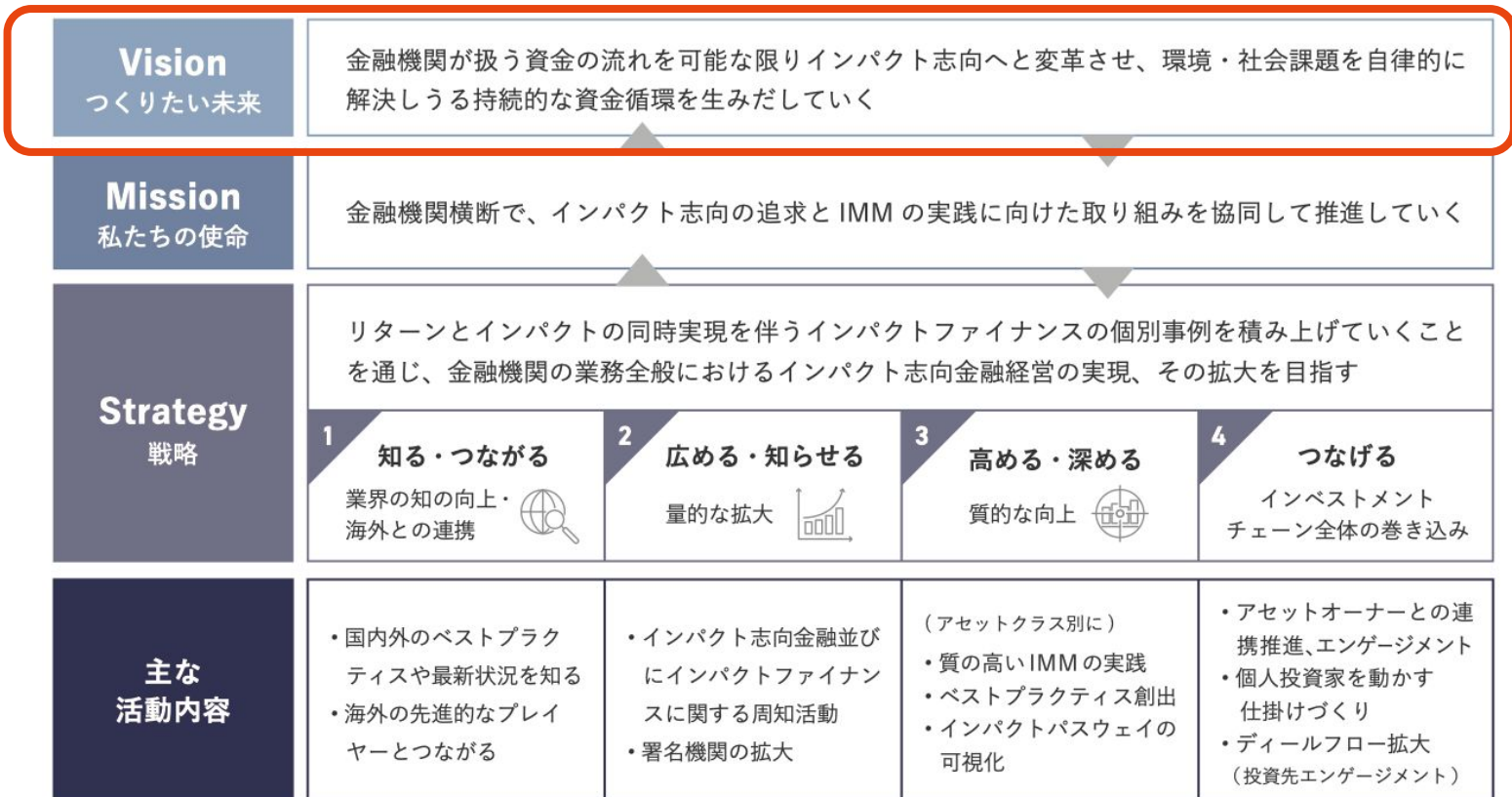
	中計	活動内容	役割
分科会間の連携強化	① ②	<ul style="list-style-type: none"> IMMIに関する各分科会の取り組みに横串を刺し、情報共有、相互乗り入れの仕組みとして各分科会から「IMM担当」を任命し、定期的(月1回を目途)にIMM担当会議を開催。各分科会におけるIMM関連のニーズや取り組みについて情報交換、相談、協議を実施し、新たなIMM企画も推進 	IMM
インパクト関連情報・データ整備	②	<ul style="list-style-type: none"> 「IMM担当会議」や運営委員会での討議を経て、宣言署名機関(アセットクラス問わず)のため「IMMの基本的あり方」文書を作成 	IMM
		<ul style="list-style-type: none"> 先行する欧米事例の理解、IMMIに関する海外の知見・最新動向を紹介するイベントを計画・実施 IMM含め、インパクトファイナンスに関する海外のスタンダードや方法論をアップデートし、国内との差分を整理・共有 	IMM+海外連携
		<ul style="list-style-type: none"> インパクトファイナンスの算入基準に関する海外の基準との意見交換会を催すなど、海外の知見も活用しながら宣言としての基準の調整に貢献 定義・算入基準のさらなる進化とガイダンスのアップデート。特に、融資における「マネジメント」の要件について議論を、融資・債券分科会と連携し推進 	算入基準+IMM(+融資・債券分科会)
		<ul style="list-style-type: none"> インパクトと企業価値の整理調査/研究の推進 	事務局
人材育成に関する議論の深化・計画策定	③	<ul style="list-style-type: none"> 分科会でのピアラーニング継続、人材育成に必要な追加的取り組みの整理 	事務局、IMM、海外連携
インパクト大賞の検討	④	<ul style="list-style-type: none"> インパクト大賞の創設検討 	事務局、運営委員有志、アドバイザー
インパクト関係情報発信のさらなる強化	④	<ul style="list-style-type: none"> 書籍出版、イベント開催、海外向け発信 	事務局、海外連携
戦略的エンゲージメントの取組み強化	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 特に経営者エンゲージメント、AO/AM向けエンゲージメントの強化 	事務局(+AO/AM分科会)
自走化方針の決定	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 7月WL会合での決議 	事務局、自走化PT
他のプラットフォームとの戦略的連携	-	<ul style="list-style-type: none"> インパクトコンソーシアム、GIIN等海外機関との連携強化 	事務局、海外連携

①中期計画の振り返り

議論

- 中期計画で定めた活動内容について、2025年の達成見込みを振り返ってみて、未達の可能性が高い以下の項目について、どのような対応が必要そうか？
 - 人材育成についてはどのように考えるべきか
 - 「インパクト大賞・認証制度」等について進めるべきか
 - その他に見落としている点などはないか

②ビジョンからのバックカスティング視点



<参考>マクロでの近年の動向

図表 1. 昨年度・本年度の継続回答組織のインパクト投資残高及び成長率

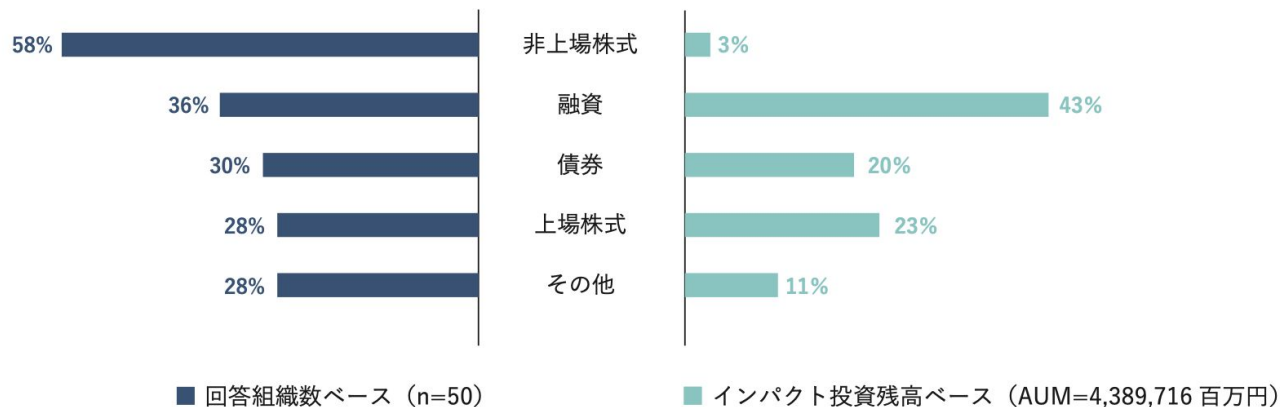
(単位:百万円)

(n=41)	2022年度	2023年度	増価額	成長率
インパクト投資残高	5,605,757	9,581,995	3,976,238	171%

出典:「インパクト投資に関するアンケート調査(2022年及び2023年)」(GSG国内諮問委員会)を基に作成

<参考>マクロでの近年の動向

図表 2. インパクト投資のアセットクラス



出典:「インパクト投資に関するアンケート調査(2023年)」(GSG国内諮問委員会)を基に作成

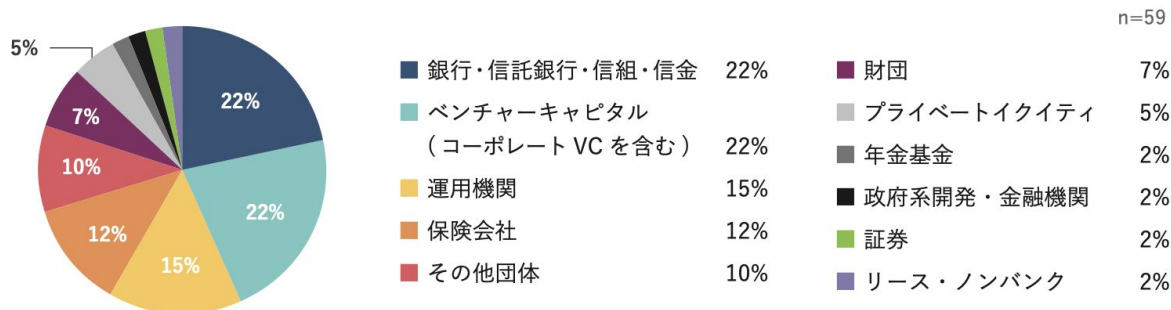
対象設問:「問8.問5-1で回答されたインパクト投資(インパクトファイナンス)残高を「100(%)」としたとき、投資手法(アセットクラス)の内訳を教えてください。ただし、どれにも当てはまらない、もしくは分類が困難な場合には「その他」に分類ください。「その他」を含め合計が100(%)となるようにご回答ください。//NA」

＜参考＞マクロでの近年の動向

インパクト投資取り組み組織の業種

- ・「ベンチャーキャピタル(コーポレートVCを含む)」(22%)、「銀行・信託銀行・信組・信金」(22%)が最も多く、次いで「運用機関」(15%)が多かった。

図表 7. インパクト投資取り組み組織の業種



出典:「インパクト投資に関するアンケート調査(2023年)」(GSG国内諮問委員会)を基に作成
対象設問:「問2. 貴組織の業種として最も当てはまるものを1つお選びください。//SA」

②ビジョンからのバックキャストイング視点

議論

- 本宣言で実現したい「ビジョン」からバックキャストイング的に考えた際に、現在の中期計画にはないが、取り組むことが望ましいと考えられる活動はないか

今後の予定、事務局連絡

- 今後のワーキングレベル会合

2024年 11月 5日 (火)

2025年 1月 29日 (水) (コンファレンス同日開催)